

サハリン島のアツモリソウ属 *Cypripedium* (ラン科)

札幌市 高橋 英樹

レブンアツモリソウの保護に関わって以来、ラン科アツモリソウ属 *Cypripedium* の分類地理に関心を持つようになった。本小論ではサハリン島に分布する本属植物をまとめてみた。ラン科植物は、日本に約 86 属 320 種あるが、サハリンには 24 属 39 種と属レベルで約 1/4、種レベルで約 1/8 程度しかない。アツモリソウ属は日本には 6 種（遊川 2015）ないし 7 種（Inoue 2016）とされるが、サハリンには以下の 4 種しか分布せずやはり少ない。北方の大陸性気候に支配されるサハリン島の気候環境とその影響下にある植生環境によるところが大きいだろう。

学名の後の文献略称は、本文最後の引用文献中にある該当文献の最後に付記している。J で始まるのが日本の、R で始まるのがロシアの文献で、本属に限ってみると学名の多くは日ロ間で一致している。分布においてサハリン南部（4～27）・中部（28～55）・北部（56～74）としたのは、緯度によりサハリン島を 3 地区に分けたもので上記（）内の番号は高橋ら（2004）での地図番号に対応する。本文で使った「絶滅危惧」は、絶滅危惧 IA 類、IB 類、II 類などのランクを全て含んだ広義のものである。北海道（H）、日本（J）、サハリン州（S）、カムチャツカ（K）、プリモリーエ（P）のレッドデータブックで認められた絶滅危惧ランクもサハリン以外の分布地域項目の中で追記した。なおサハリンを含むロシアの

ラン科植物をまとめた比較的最近の文献として Vakhrameeva et al. (2008) がある。

アツモリソウ属 *Cypripedium* L.

大きな袋状の唇弁をもち、Lady's slipper とよばれる。分類については Cribb (1997) や Averyanov (1999) に従った。本属の日本国内での地理分布パターンは高橋（2009）でまとめた。

1 ホテイアツモリソウ（アツモリソウ）
Cypripedium macranthos Sw. [as “*macranthum*”, JM 1915; as “*macranthum*”, JS2 1939; as “*macranthon*”, RF8 1996, as “*macranthon*”, RV 2002, as “*macranthon*”, RC 2004; as “*macranthon*”, Vakhrameeva et al. 2008; JK 2015; JW1 2015; JF4b 2016] (図 1)

疎林から草原に生える多年草。サハリンの南部から中部にややまれに分布する。サハリン州（サハリン島と千島列島を含む）の「絶滅危惧種」に指定されている。サ



図 1 ホテイアツモリソウ（開花後） サハリン南部ツアプロ周辺 2007. 7. 11